16th Y'S MEN INTERNATIONAL YOUTH CONVOCATION

TAIPEI, TAIWAN 1st-7th AUGUST 2016

JAPAN WEST REGION

EDITER: Toshiki Sugo

目次

Ⅰ	巻頭挨拶	1 -2
Ⅱ	開催概要	3
Ⅲ	基本情報	4-5
Ⅳ	参加者一覧	6-8
Ⅴ	プログラム報告	9-20
Ⅵ	参加者感想	21-36
Ⅶ	編集後記	37

Ⅰ巻頭挨拶

2016 年 IYC 西日本区 報告書の発刊にあたって

西日本区理事　岩本悟

2016 年 8 月 1 日～7 日に開催された２０１６年国際ユースコンボケーション （IYC）の報告書発刊にあたり、お祝いを申し上げます。皆さまのご支援により、西日本区から大阪西ワイズメンズクラブの推薦の吉村 尚馬さんと京都ウエストワイズメンズクラブの推薦の市橋 さらさんが素晴らしい国際体験をすることができました。この大会には２０ヵ国のユース９４名が参加しましたが、 言葉の壁を乗り越え、文化や習慣の違いを楽しみながら相互の友情を深めるこ とができたことを嬉しく思います。 また、それぞれの国や地域が抱える問題や課題を相互に紹介し、地球規模の課題を考える機会が与えられたことは YMCA やワイズメンズクラブが目指してい る地球市民の育成に貢献できたものと思います。

今年の YMCA サービス・ユース事業主任の事業計画の中に、「ユースに国境を越えた友情を体験させる」とありますが、今回のユースコンボケーションも計画実現の良い機会であったと思います。このような取り組みの積み重ねが平和な世界の実現につながるものと信じています。お二人を送り出していただいた 推薦ワイズメンズクラブの皆さま、そしてそれをお支え頂いた全国のワイズメンに心より感謝申し上げます。

最後に、今回参加されたお二人の今後の活躍を祈念してごあいさつといたします。

巻頭挨拶

I believe that the IYC delegates from Japan were extremely hard-working, friendly, and were you all tried your best to understand the sessions which were all in English. However, I believe that if the delegates continue to work hard towards volunteering and inviting more youth their club activities, then Japan will be a strong region and will even have a stronger representation for the next IYC.

YI Stephanie Spencer, Youth Intern 2015-2016

日本の IYC 参加者は、非常に勤勉かつ友好的で、すべて英語で行われたセッションを理解しようと全力を尽くしていたと思います。

ただ、同時に、今回の参加者がボランティア活動やユースクラブ活動の勧誘に対する尽力を継続してくれるならば、日本でも YMCA の精神が浸透して、次の IYC には一層優れた参加者を輩出するだろうと確信しています。

ステファニー・スペンサー

翻訳：小林

Ⅱ　開催概要

・日程：２０１６年８月１日～２０１６年８月７日

・開催場所：台湾　台北

・参加国数：２０

（バルバドス、ブルガリア、カメルーン、カナダ、チリ、エクアドル、エジプト、フィジー、インド、ジャマイカ、日本、ケニア、マレーシア、ナイジェリア、ロシア、韓国、台湾、タンザニア、ウガンダ、アメリカ）

・参加者数：９４人

・主会場：CHIENTAN YOUTH ACTIVITY CENTER　　JI-SIAN HALL

Ⅲ　基本情報

・YMCA

１８４４年、ロンドンで創設されました。YMCA を作ったのは、ロンドンで働いていた２０代の若者達でした。その中心人物に、ジョージ・ウイリアムスがいます。彼は、キリスト教信仰に基づいた青少年の育成活動を目指しました。また当時、貧富の差が大きくなっていたイギリスの現実の改善にも取り組みました。このような活動が広まりYMCA（Young Men's Christian Association：キリスト教青年会）が作られました。その後 YMCA は世界各国に広まり、キリスト教信仰の下に１つとなって活動することをパリで確認しました。日本では１８８０年に初めて、東京 YMCA が作られました。

YMCA のロゴは三角形です。この三角形は「Spirit（精霊）」「Mind（知性）」「Body（身体）」を表しています。知識や体力だけではなく、それぞれをバランスよく身に付けることを目指しています。

・Y’s Men’s Club（ワイズメンズクラブ）

【Y’s の前身：トリムカクラブの誕生】

１９２０年、アメリカのオハイオ州トレドの YMCA の中に、ポール・ウィリアムス・アレクサンダー判事が中心となって会員増強の同志によるランチョンクラブ（昼食を共にする社会人のクラブ）が発足しました。このクラブはトレドの TOL と YMCA をくっつけて、TOLYMCA クラブ（トリムカクラブ）と名付けられました。これがワイズメンズクラブの前身です。この YMCA をサポートする運動は、YMCA と共に地域奉仕を行う運動として、全米そしてカナダに広がりました。

【トリムカクラブからワイズメンズクラブへ】

トリムカクラブはこの運動にふさわしい「ワイズメンズクラブ」（Y’s Men＝YMCA の人）と名称を変えました。１９２２年、アメリカ・カナダのクラブが集まって「ワイズメンズ国際協会（Y’s Men International）」を設立しました。その後、世界各地にクラブが結成され、地域における奉仕活動を行うとともに国際間の友情を育てていきました。当初会員になれるのは男性のみでしたが、のちに女性も平等に入会できることになりました。

【そして日本にも】

日本には、当時大阪 YMCA の主事であった奈良伝によって紹介され、１９２８年に最初のクラブである大阪クラブが設立し、国際協会に加盟しました。その後ワイズメンズクラブは、神戸、横浜、東京など大都市に結成され、１９３２年日本区を設立、１９９７年には東西二区となりました。

・YMCA と Y’s の関係

YMCA と Y’s Men’s Club はパートナーです。それぞれの特色を生かしながらも、お互いに協力し合いながら、社会奉仕を行っています。

・ユース

YMCA やワイズメンズクラブに関わる１５歳から３０歳までの若者のことを「ユース」と呼びます。YMCA ボランティアリーダー（YMCA の提供するプログラムを中心になって実施するボランティアのユース）、ワイズコメット（ワイズメンズクラブのメンバーの子供）、学生 YMCA（YMCA 活動の中で、特に全国の大学及び学生寮、また専門学校を拠点にした学生中心の活動）、その他のユース、これらすべてがユースと呼ばれます。

・IYC

【世界のユースの集い】

IYC（International Youth Convocation：インターナショナルユースコンボケーション）とは、世界中のユースが二年に一度一か所に集まり、これからの活動や決められた題目について話し合う大会です。また、IYR（International Youth Representative：国際ユース代表）の信認選挙が行われます。その他、各国々の文化紹介や開催地の観光、レクリエーションなどもあります。同時開催されている、ワイズメンズクラブの国際大会（IC：International Convention）に参加されたワイズメンと交流する機会もあります。

Ⅳ　参加者一覧

西日本区

吉村尚馬

Shoma Yoshimura

所属：大阪西ワイズメンズクラブ　コメット
推薦：大阪西ワイズメンズクラブ

市橋さら

Ichihashi Sara
所属：京都ウエストワイズメンズクラブ　コメット
推薦：京都ウエストワイズメンズクラブ

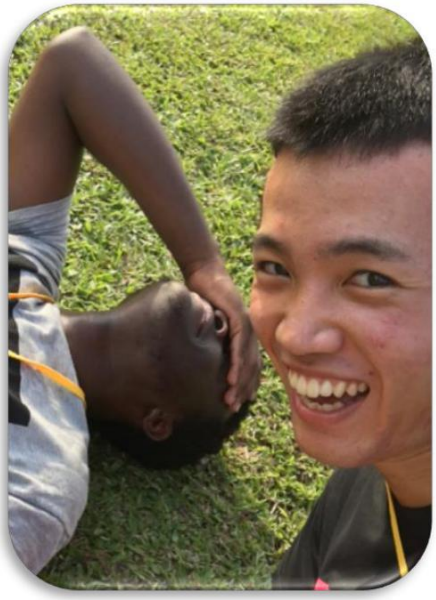
東日本区

佐宗　伶子

Reiko Saso

所属：中央大学 YMCA

推薦：東京八王子ワイズメンズクラブ



須郷　利貴

Toshiki Sugo

所属：中央大学 YMCA

推薦：東京八王子ワイズメンズクラブ

末永　実花

Mika Suenaga

所属：茨城 YMCA

推薦：茨城ワイズメンズクラブ

小林　太地

Daichi Kobayashi

所属：東京 YMCA

推薦：東京サンライズワイズメンズクラブ

永坂　仁

Jin Nagasaka

所属：獨協大学

推薦：埼玉ワイズメンズクラブ

内海　研治

Kenji Uchiumi

所属：とちぎ YMCA

宇都宮市青少年活動センター職員

推薦：宇都宮ワイズメンズクラブ

V　プログラム報告

【Y’slympics Activity】　（１・３・５日目）

オリンピックイヤーということで、１０個のグループに分かれてスポーツ大会が行われました。チーム名、応援の掛け声を作り、ゲームをしてほかのチームと競いました。

【Y’s Devotions】（毎朝）

毎朝、３０分程度の devotion=祈祷の時間が設けられました。日によって、違うエリアによって行われており、歌や発表、スピーチなどの様々な方法によって祈りが捧げられました。

【Culture Night】（１・２・３日目）

カルチャーナイトとは、IYC 参加者が自国の文化を他国からの参加者に発表しその国のことを知ってもらうことを目的としたプログラムです。

各国とも自国の有名な風景や建築、あるいは食文化などを紹介したりしていましたが、中には歌やダンスを披露する国もあり、会場は大いに盛り上がりました。

日本は、西日本、東日本の順にサブカルチャーの分野に焦点をあて、通称オタ芸と呼ばれるダンスを披露しました。ポケモンやトトロ、ドラゴンボールといった日本のアニメが世界的にも大流行していることもあり、この日一番の盛り上がりとなりました。

１日目　担当：永坂

IYC が始まるので、IYC についての紹介・共有がメインの１日となりました。

【OPENING CEREMONY】

台湾ユースの方たちがオープニングセレモニーを担当し、台湾の文化紹介や合唱などの楽しい催しから、スタッフの紹介、IYC のプログラム説明、ハウスルールの説明などがありました。

オープニングセレモニーの間は、私たち東日本区はフライトの到着時間のこともあり若干遅れて入場しました。しかし、東日本区のみんなは遅れてきたことを過度に気にせずに色んな国のユースたちとコミュニケーションをとっていました。特に台湾の文化紹介の時に台湾ユースの方が歌ってくれた曲の中に、有名な日本の曲などが多数あったので日本ユースのみんなは驚いていました。

【Ice break】

ゲームを交えながら、自己紹介をしました。「〇人のグループに分かれろ！」という指示が飛び、皆が一斉にグループを作るというゲームなどをしました。その姿はさながら子供のようでした。皆が打ち解けていく様子を感じ取ることができました。

【session1:Practical IYC Information】

IYC についての説明がされました。その他、YMCA・ワイズメンズクラブの歴史や、組織体系についてなどの、基本情報を学びました。

【session2:An Intro to YMI】

YMI（Y’s Men’s International ）について穴埋め問題が出題されました。それをアイスブレイクで一緒になったグループで解いて、私たちのクラブへの理解を深めました。

２日目　担当：小林

午前中は ICM（International Council Member：国際委員）の方々と議論を行ったあと、昼食を共にして親睦を深めました。午後はグループワークのための準備・発表を行いました。

【Session 3 : YMI Opportunities】

このセッションでは、ワイズメンズクラブに関わる若者が参加できる数々のプログラムについての講義を受けました。STEP, YEEP, LINCS などの、一定期間にわたっての YMCA について学ぶ研修プログラムや留学・交流を目的とするプログラムが存在し、これらについての説明・紹介を聞きました。

【Session 4 : Youth Panel Discussion】

このセッションはユースの将来像について考えることが目的で、ICM の方々から今後のユースの方向性や活動方針についての意見を伺いました。それに対してユースの側からも質問や意見が出ることにより、セッションがただの講義の時間ではなく双方向性のある議論となり、最終的には当初挙げられていた将来像を具体化させて一層明確で実効性のあるものへと発展させることができました。

【Session 5 : Gold 2.0 Panel Discussion】

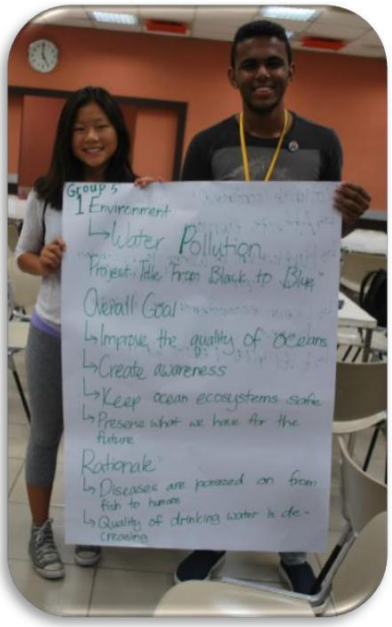
このセッションでは、望まれる「リーダー」とは何か、望まれる地球に生きる一個人とは何かという視点から、理想的な人間像について考えました。リーダーシップをとって計画を進める上では、会話力、プレゼンテーション能力、目標設定、問題解決力、決断力などの要素が重要で、オールラウンドにこれらを満遍なく兼ね備えていな

【Session 6 : Project Management】

このセッションでは、先のセッション５を踏まえて、プロジェクトをマネジメントするためのいろはを学びました。計画の立案にあたって特に必要な要素、具体的にはインスピレーション、企画、計画、理解、発想、対話、駆け引きといったキーワードが挙げられ、それぞれについて解説を受けました。そしてこれらは次のセッション以降から実際にプロジェクトを考えていく上での土台となりました。

【Session 7 : Managing your Youth Club】

このセッションは講義よりもグループごとのディスカッションがメインで、セッション５、６で学んだマネジメントの基本に則り、ホームグループごと環境問題、人権問題、貧困問題、健康問題の４つのテーマの枠組みの中から１つを選び、それについて「実現可能性があり」、かつ「継続性のある」活動を企画・提案することを目標に、グループワークをしました。



各グループでテーマとそれに対する企画を考えて最後に発表をしていましたが、どのグループも想像性豊かに企画を考案していました。例えば環境保護のためにレジ袋の使用の削減・禁止を呼びかける活動を提案したところや、癌に死亡が世界的に増えていることに焦点をあてて、がんの啓発活動を企画したところ。ほかには、女性の人権に焦点をあて、女性が輝ける社会を作るために男女差別の解消を図る啓発活動を企画したグループなどがありました。

そのあと、自分たちの新しいクラブを作るとしたら、というテーマでグループディスカッションを行い、発表をしました。

３日目　担当：内海

グループワークを中心としたセッションを行い、Culture Night では日本の文化紹介をしました。

【Session 8：Talent Management】

個人のプロジェクトマネジメントを学びました。自分個人のプロジェクトのゴールを設定し、そこから導かれるビジョン、そしてアクションを考えていきます。そのプロジェクトを達成するためには１０年後どうなっていたいか、５年後はどこにたどり着いていればよいか、そのために２年後の自分は何をしているか、そして今何をするべきかを書き出して発表しました。

【Session 9：YMI/YMCA Relationship】

世界の国々とコミュニケーションを取っていく中で、国と地域によって YMI と YMCA の関係性が異なることがわかりました。深い繋がりがある地域もあれば全くない地域もあり、YMI と YMCA でよい関係を築くにはどうすればよいかグループで考えました。

・YMCA のリーダーがワイズの例会に参加する

・YMI と YMCA で同じキャンプをする

・合同のイベントを企画する

・SNS で共同ページをつくる

・YMCA と YMI の定例会議を設ける

・プログラムの対象をお互いのメンバーに開く

など、様々なアイディアが挙がりました。

【Session 10：Project Management 2】

プロジェクトを企画する際に、その目的は何か、誰が利益を得るのか、どのくらいの期間で進めるのかを考え、マーケティングという観点からプロジェクトマネジメントを学びました。広報の仕方ひとつをとっても、情報がいつ相手に届くのか、どの時間帯が有効か、誰に届けたいのかなど、目的によって広報ツールを選ぶ必要性も学びました。

【Session 11：IYR Voting Procedure】

IYR （International Youth Representative：国際ユース代表）がどのように選出されるのか共通理解をしました。また IYR の役割、果たすべき責務についても理解を深めました。このあと、ゲーム形式のレクリエーションを行いました。

４日目　担当：佐宗

台北 YMCA の子供たちと活動を行ったあと、IC（International Convention）のオープニングセレモニーに参列しました。夜は市林夜市へグループ観光をしました。

【Community Service Project by Keelung River】

台湾北部を流れる基隆河の側で地域社会への奉仕活動を行いました。台北 YMCA の子供たちと一緒に、壁に貼られた長い紙に今回の IYC のテーマ「Service in Action, Dare to Lead」を描きました。

【IC Opening】

グランドホテル台北で開催された Y's men International 72nd International Convention のオープニングセレモニーに参加しました。また、日本からいらしていたワイズの方たちと交流することができました。

【GAME/DINNER IN SHILIN NIGHT MARKET + SIGHTSEEING TOUR】

夕食時に各グループに割り当てられた３つの台湾料理のノルマを達成すべく、士林夜市に繰り出ました。タピオカミルクティー、豆腐プリン、刺激臭がする臭豆腐という食べ物など台湾料理を満喫しました。ノルマ達成後、屋台のゲーム、射的、麻雀、バスケなどを楽しみました。

５日目　担当：末永

今までの講義から学んだことを生かし、まとめのグループワークを行いました。夜は、世界のユースの代表である IYR の選挙を行いました。

【Session 12：Project Management 3 GROUP PRESENTATIONS and Review】

２日目から始まったホームグループの活動の総括として、プロジェクトマネジメントを模造紙やスライドにまとめ、発表しました。それぞれのグループでとても工夫されたプレゼンテーションを見ることができました。

【Session 13：Area Group Project Plans】

最初にアジアグループの各国で行うアクションプランについて話し合いました。

そこで昨今話題に上がる地域の高齢者の施設を支援するという案が挙がりましたが、金銭面と個人の多忙さを考慮した結果現実的ではないという結論が出たので、この案は却下されました。

次にどこの国にも共通しているという点で、環境問題について何かをしようという話になりました。

そこで誰もが身近にできる物事の一つとしてゴミ拾いをしようという案を AYR である Candy さんが出しました。

拾ったゴミの写真をスマートフォンなどのカメラ機能を使って彼女に送ることで、自分たちが拾ったゴミの数を把握し、自分たちがどれだけ環境問題に貢献していたかを認識する計画をアクションプランとして提出しました。

【session 14：Global Issues Affecting Young People】

「若者に関わるグローバル問題」をテーマに、講義を聞き、グループを超えた意見交換の活動をしました。

【Session 15：Heads Up! The Art of Leadership】

ホームグループでオリジナルのゲームを作る活動を通し、リーダーシップについて考えました。

【Session 16：The Environment and You!】

尊敬できる人などについて考える時間を持ちました。

【IYR Election】

アメリカ代表の Matt Stuckel さんとペルー代表の Ricardo Andre Cardenas さんが IYR に立候補しました。投票の結果、２０１６年から２０１８年の IYR は、Ricardo さんになりました。彼は今回の IYC には都合がつかず、参加できませんでしたが、インターネットの通話越しに堂々と目標を語っていました。

６日目　担当：須郷

台北周辺のエクスカーション（観光）を行う日となりました。夜には晩餐会が開かれました。

【Lin An Tai Historical House and Museum】

林安泰古厝民俗文物館という、１７００年代から１８００年代にかけて造られた建築物及び庭園などを復元した建物に行きました。日本の建築のようで、そうではない中華の建築を体験してきました。

【Shrimp Fishing】

松園釣蝦場で、エビ釣りをしました。エビ釣りは台湾ではローカルかつポピュラーな遊びの一つだそうです。釣ったエビはその場で焼かれ、おいしくいただきました。アクセサリー作りも体験でき、とても充実した時間を過ごしました。

【National Palace Museum】

故宮博物院で１時間程度見学をしました。中国の古代の皇帝によって集められた秘宝の一部を見ることができました。しかし、目玉の展示物である「翠玉白菜」「肉形石」は貸し出し中のため見ることはできませんでしたが、台湾の歴史を少しばかり体験することができました。

【IYC CLOSING SESSION】

IYC を締めくくるセレモニーを行いました。今大会で一番〇〇だった人！などの表彰ではみんなが笑顔で拍手をしていました。また、最終日の Devotion はこのときに開かれました。担当はアジア地域（日本・台湾・フィジー）の３か国によるものでした。特に、８月６日ということで日本は広島の原爆から平和のために祈る、というテーマにしました。

【IP NIGHT BALL】

IC・そして IYC の最終日を目前にして、台北エキスポホールにて晩餐会を行いました。終盤、ユース達は壇上に上がり、音楽に合わせて踊りました。

７日目　担当：永坂

【IC Closing Ceremony】

最終日の午前、International Convocation(IC)のクロージングセレモニーが行われました。IYC 参加者のみんな１週間の疲れが出たのか、厳かな態度でクロージングセレモニーを聞いていました。

クロージングセレモニーでは閉会に際しての祈祷、賛美歌斉唱などを行った後、IYC 参加者のユース全員が壇上に立ちこれまでの活動を振り返り報告をしました。

IC の閉会式の後は、みんなそれぞれ写真を撮り、SNS などで連絡先の交換をしていました。

Ⅵ　参加者感想

吉村　尚馬

気が付けばこの IYC/AYC への参加も３回目になっていました。１回目はインドに行ってみたいという理由から、２回目は尊敬している先輩に委員会としての参加を誘われたこと、そして今回は西の参加者が一人しかいなかったからです。

当初の私は大学の関係で参加を辞退しようと思っていましたが、あまりの参加者の少なさと経験者の少なさを見て、参加しようと思いました。大阪西クラブのワイズメンにはとてもお世話になっていましたし、なによりこの素晴らしい機会を逃すのももったいないと考え直したのも一つですが、一人で空港に行って飛行機に乗り、現地で東の人と初めて合流し、文化発表もひとりでやらなければならないのは、経験者ならまだしも初参加ならとても大変でつらい思いをするに違いないからです。

海外経験が多少ある人でもインド人やエジプト人など発音の独特な外国人も参加しますので、コミュニケーションにおいて完璧に意思疎通できるのはとても難しいと思います。そもそも日本に生きていて日本人同士でコミュニケーションを適切に行うのも難しいのに、言葉も違う、文化も違う、そんな中でコミュニケーションなどしっかりと取れるわけないのです。それができる人は留学経験があったり海外によく旅行をするような人たちで当然過去 2 回参加した私にとっても簡単なことではありません。

しかしそんな私自身も参加するたびに成長していました。例えば今回はセッションの内容を少しは聞き取れるようになったり、外国人と音楽の趣味について語りあったり、またふざけあうこともできました。そんな中で自分の中で一番の成長を実感できたことはグループディスカッションに臨む姿勢です。これは日本人に限ったことではないのですが、第二言語として英語を学んでいる人はどうしてもネイティブスピーカーのディスカッションについていくことが難しいのです。なのでどこのグループも大概はネイティブ同士が話し合ってそれに圧倒されたアジア系の人たちはどうしていいかわからず、ただただ見ているだけという形に収まってしまうのです。

（続く）

（続き）

そこで私はネイティブの話し合いに水差すようにといえば聞こえは悪いですが、わからなかったこと、聞き取れなかったことをディスカッションに全部質問して、その質問と同時に自分の意見をねじ込みました。自分の英語では説明できないと判断したときは絵を描いて自分の意見を主張しました。こうすると彼らの話に入ることができて、有意義な時間を過ごすことができました。

自分の意見を主張しないと話に入れない、すなわち主張することで参加できるというのは僕が過去の参加で経験し得た真理です。簡単で当たり前のことのようですが気づくことに難しいことであると私は思います。

私たちがこうやって IYC に参加できているのもワイズメンの方々が海外のワイズとの交流もしっかり行い、また私たちが活動しやすいような計らいを当たり前のようにしていただいているおかげです。ありがとうございました。

市橋　さら

私は今回、最年少で IYC に参加させていただきました。参加に至った理由は、英語でのコミュニケーション能力のスキルを上げたいと思っており、また英語で日本の文化などを紹介できるようになりたいと強く思ったことです。

楽しみだと思う気持ちもある一方で大きな不安を同時に抱えていました。

はじめは緊張してしまって、せっかく話しかけてもらっても、勢いにおされてうまく答えられず、曖昧にごまかしたり、逃げたりしてしまっていました。そんなときに、オープニングセレモニーで隣に座った女の子が優しく話しかけてくれたので、落ち着いて答えることができました。話があまり理解できないことを伝えると、色々と丁寧に教えてくれました。その子のおかげで、なんとか一日目を終えることができました。二日目からは少しずつなれてきて、日が経つごとに会話もできるようになっていきました。英語で自分の思いを伝える事はとても難しいことですが、その英語での会話は私にとって新鮮で、楽しくて嬉しくて、とても素敵な体験でした。

中学のクラスの中では英語が得意な方だったので、友達に教えたりもしていましたが、IYC で実際に英語の世界で七日間過ごしたなかで、セッションの内容などはあまり理解できないし、今までよりも広い世界を知ったので、私なんてまだまだだなと感じました。

グループワークにもなかなか参加できず、黙り込んだりしてしまい、悔しい思いはしましたが、たくさんの方が私を助けてくださいました。日本の参加者の方はもちろん、ルームメイトや同じグループの方も、なかなか英語が理解できない私を気にかけてくださり、わかりやすく何度も説明してくださいました。そのおかげで、話し合いに少しは参加できたり、その日の予定なども知る事ができました。こうやって色んな方に助けていただいたからこそ、この IYC は私にとってすごく楽しい思い出にすることができました。新しい友達もたくさんでき、英語で世間話や女子トークをしたり、カルチャーナイトなどで他国の文化も知ることができました。

（続く）

（続き）

こんなにすばらしい経験をさせていただき、本当に感謝しています。

初日は早く帰りたいと思っていた私が、最終日には帰りたくない、また次回も参加したい、と思えるくらい楽しむことができました。

またこのような機会があれば、何度でも参加していきたいと思っています。

私たちユースのために、たくさん協力していたたぎ、ありがとうございました。

佐宗 伶子

私は今回初めて IYC に参加しました。参加した理由は二つあります。一つ目に、高校生の時に留学した経験が今回のプログラムと似ており、もう一度、あの時の世界中の同じ年頃の学生たちと交流する楽しさを感じたいと思ったからです。二つ目に、将来、世界を股にかけて働きたいと考えている私にとって、彼らとディスカッションではファシリテーターの重要性を学びました。私のグループのファシリテーターはチリからの二十歳の男の子でした。ディスカッションが行き詰った時に新たな方向から提案し、テーマからそれないように誘導したりする姿に驚きました。世界のユースからディスカッションの運び方、良いディスカッションとは何かということを学ぶ機会になりました。

IYC の一カ月後、他団体ではありますが、内閣府主催の国際交流事業への参加を予定しています。派遣国のラオスの学生と交流する機会がありますが、今回学んだ良いディスカッション、また交流への積極性を活かしていきたいと思います。今後、どのような場でリーダーという立場にたつかわかりませんが、この IYC は既に多くのことを与えてくれました。リーダーとしてでなくても、この経験が活かされるように今後もボランティア活動やサークルの活動に参加していきます。

最後になりましたが、この度は貴重な機会を与えてくださった東京八王子ワイズメンズクラブ、中央大学 YMCA の皆さまに大変感謝しております。本当にありがとうございました。

須郷利貴

はじめに、IYC という素晴らしい経験の場へ私を推薦してくださった八王子ワイズメンズクラブ・東日本区のワイズメンの方々へ感謝の意を表したいと思います。特に、八王子ワイズメンズクラブの方々には、資金面での援助はもちろんのこと、参加以前から手厚いサポートをいただきましたこと、深く感謝しております。このほかにも、IYC にあたり様々な方のサポートを受け、IYC を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

今回、初めて IYC に参加して「ためらわずに行動すること」の大切さを実感しました。わかりやすく言うならば、「いかにためらわずに行動し、チャンスをものにするか」ということです。これは、IYC というレベルの高い大会でためらってしまって後悔したこと、ためらわずに行動して良い結果を得ることができたこと、この２つの経験からそう感じました。私は英語が得意ではないので、ユース達に下手に話しかけると相手に失礼になってしまうのではないか、上手く伝えられないからいいや、などと自分に言い訳をして、話しかける機会を逃していました。しかし、このままでは IYC という貴重な機会を無駄にしていることに気づき、少しずつですが、日程の後半では英語で話しかける機会を増やしていきました。高度な内容の会話をすることはできませんでしたが、それでも参加者たちと交流し、意見を交換したり、他愛もない話をしたり、楽しく充実した時間を過ごすことができたことは、良い結果だと思います。

次の IYC・AYC の参加者に対するアドバイスとしては、やる前から「できない」と頭で考えるより、やりたいと思ったなら行動に移していってください。やらずに後悔するよりもやって後悔して、次へつなげることが大切だと思います。また、言語面で不安があったとしても、臆せず話しかけていって、挑戦してください。参加者全員が優しく、気の合う仲間もきっと見つかります。チャンスを目前にして、そのチャンスを生かせずに終わってしまうか、チャンスを活用して人生の糧とするか、すべては自分次第だと思います。そして、参加した経験をクラブのメンバーへ還元できるように、素晴らしい体験を自らの力で獲得していってください。

（続く）

（続き）

IYC に参加した結果、思い切って行動することが増えました。身近な例では、今まで以上に YMCA・ワイズメンズの活動に積極的に参加しようと意識するようになりました。今まで参加したことのないイベントに参加し、自分ではできないと思っていたことに挑戦するようになりました。そして、クラブのメンバーが活動に参加しやすいように、私が先陣を切って活動に参加しようと思いました。また、よりよい活動にするための改善点などを積極的に発言していき、よりよいクラブにするために何ができるだろうか、と日々意識しています。来年は中央大学 YMCA のプログラムであるタイスタディーツアーに参加し、 AYC へ向けて意識を高めていきたいと思っています。

このように、頭であれこれ考えて行動することをためらわなくなったのは、IYC に参加して得られた大きなものだと思います。今後も、私は思い切って行動していき、貴重な体験を経験し続けていき、クラブと共に成長していきたいです。

末永実花

私は去年の春から茨城 YMCA でボランティアリーダーをやっています。茨城 YMCA では、「君がいてうれしい」という言葉をモットーに様々な活動をしており、その中で私は、子どもたちと一緒にキャンプに行ったり、日帰りのプログラムで遊んだりという形でかかわっています。また、障害のある人々と一緒に遊んだり、日常生活に関わるようなプログラムを楽しく行ったりという活動もしています。

今回の IYC では、スローガンは「Dare to Lead」といっても、セッションなどは「ボランティアリーダー」の「リーダー」という意味とは離れた、ビジネス的な「グローバルリーダー」などの「リーダー」という意味合いが強かったように感じました。しかし私はボランティアリーダーの目線から「世界中のユースがどのようにリーダーシップを発揮するのだろう」ということ、また外国語としての英語を使う身として「情報が伝わるということ、またはできないということと参加する楽しさはどう関係するのか」ということを考えずにはいられませんでした。

後者に関して、私はボランティアリーダーとして幼稚園、保育園に通う幼児から障害のある人々まで、様々な人と関わりますが、彼らが私たちの説明をすぐに理解してくれるわけではありません。しかし私は茨城 YMCA の「君がいてうれしい」を彼らに届けるには、彼らに積極的に参加し、楽しんでもらいたいと考えています。理解できないならその上でどんな楽しみ方があるのか、またどうすれば分かりやすいのかを、母語ではない英語を使うことで、普段と逆の参加者の立場から体験できるのではないかと考えたのです。

一つ目の点に関しては、アイスブレイクや、みんなの注目を集める際や準備中の場をつなぐ際のミニゲームが印象に残っています。まだ話したことのない人とグループになることが盛り込まれたゲームや、変な言葉や歌詞を歌ったり、リズムに合わせて振付をしたりするゲームなど、そのまま子供と遊べるようなものもあり、大変参考になりました。

（続く）

（続き）

二つ目の点に関しては、多くの課題が見つかりました。早口でしゃべると英語圏出身以外の多くの人は理解できなくても理解しているようなふりをすること、英語のスピーキング能力が高いかよくしゃべる人のみの意見が通ってしまいやすいこと、またゲームのルールなどは理解していても、そのゲームで勝つことのみを目的にしてしまい、大切なコミュニケーションやゲームを通して仲良くなるということがおろそかになってしまいがちであることなどです。主催側の人々にも話を聞き、彼らも説明を何度も繰り返したり翻訳したりという努力はしていましたが、なかなか全員に説明を分かってもらうのは難しいようでした。一方で、英語圏出身者でも他の人の話を辛抱強く聞いてくれた人、また英語はうまくなくても、簡単な単語や表情で楽しい人柄が伝わるような人がたくさんいたのも事実です。

この経験から、前に立って説明する際は常に参加者側が話についてきているか確かめ、巻き込みながら話すこと、デモンストレーションなどで分かりやすくすることを心がけようと思います。この他にも、ここには書ききれないくらい多くのことを学び、感じることができました。この機会を与えてくれた方々に心から感謝いたします。

小林 太地

私は、８月１日から７日までの１週間、台湾において開催された Y's Men International Youth Convocation（以下 IYC）に参加した。数々のセッションやイベントを通じて、日本では触れることのできない異世界を心身両方で体感できたことに加え、今の自分に欠けているものや今後自分自身を改善し成長させていくために必要なことも見えてきた旅であった。この感想文では、「異世界」と、自信の回顧と改善について思うことを述べる。

まず第一に、「異世界」を体感できたということについてだが、文字通り国外に出たことだけを意味するのではない。台湾に集った数多の国々の人と共に生活する中で、それまでの自分には全くなかった考え方・価値観と自分のそれとの衝突を感じた。例えば、インドのメンバーは総じて陽気で初対面でないように接してくるが、徐々に英語を早口で話し、しかも時間にはこの上なくルーズなところがあった。またアメリカのメンバー及びカリブ・アフリカの旧イギリス領の国から来たメンバーに関しては、英語に抵抗が全くないため、自己中心的に話し議論を独善的に進めてきてついていくのが難しかった。とりわけ高度な英語力が必要になるセッションの時は、日本をはじめとするアジア人は英語が第一言語でないと分かっているはずなのになぜ配慮してくれないのか、と終始イライラしていた。自由時間に会話する分には問題なくできるのに、セッションになって議論が白熱してくると誰もが早口でまくしたてるように喋るので、聞き取るのが非常に大変で、ついていけないことも間々あった。そういう意味で、IYC の目玉であるセッションは短気な私にとっては未曽有の大試練だった。

しかし今となってはこのイライラこそが異なるバックグラウンドを持つゆえに生じるものだと思う。と言うのは例えば一般に日本人は相手への配慮を重んじるので、ついつい外国人にも同じものを要求してしまいがちだ。だが当然彼らにはそのような感覚はない。それゆえ思いやりが一方通行になりイライラが生じる。

IYC とは、いわば１週間限定の人種のサラダボウルである。その中で国内での常識が通用しない文化的な壁に遭遇したという点で「異世界」に踏み込んだように感じたのである。これをカルチャーショックと言えば有り体だが、しかしこれは国外に出て、しかもそこで複数の国の人と接触せねば得られないという点で特殊な感覚である。私は、自我が形成される中学・高校時代に国外に出ることがなかったが、「日本人」として出来上がってきたタイミングでサラダボウルを体感し自分の世界観を活性化することができたことに大いに満足し感動している。

（続く）

（続き）

そして第二に、「異世界」を彷徨う中で見つめ直し、考えたことについて述べる。

私は昨年度より東京 YMCA 山手学舎に住んでいるのだが、その縁で今年度からは山手センターにおいてボランティアリーダーとして YMCA の活動に参加している。活動するに当たりリーダー同士で話し合って準備をするのだが、その話し合いの場での私は常に「冷静沈着・沈思黙考型」だった。すなわち、自分から積極的に話し合いに参加していくというよりはむしろ、論理的に考えて自分の意見を作り上げ、理論武装ができた段階で初めて口を開いて話に一石を投じたり、時宜を得た発言をすることこそが良いことだと思っていた。軽はずみに発言して的外れなことを言うようなら、目立ちはするが顰蹙を買うばかりで自分の価値を下げかねないと思っていたからだ。そしてこのスタンスは来る IYC でも通用するだろうと思っていた。

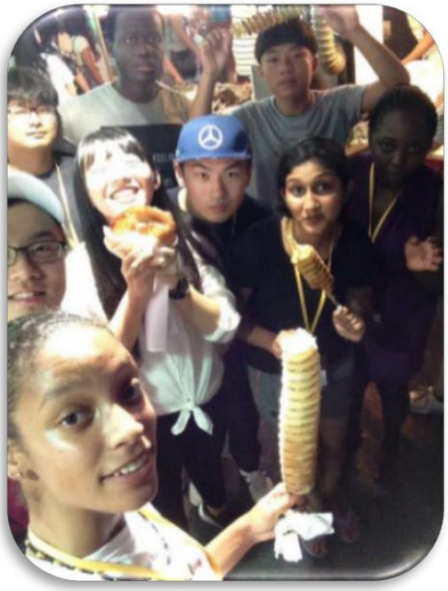
しかし現実はそうではなく、相手の言い分を理解した上で自分の意見を構築するやり方は、セッション中めまぐるしく展開される議論の中ではほとんど無意味だった。そもそもあの場で行われた議論は私の想定ほど仰々しいものでなく、自由に気軽に発言しやすい環境の中で行われていたから、私の慎重さは却って仇となり会話に参加する機会を何度も逸してしまった。英語が堪能でないがためにうまく話に割って入れず、機会を逃してしまったことも一因ではあるが、一番は私が環境に適応しきれてなかったことが原因で、気負わずにもっと積極的に議論に関わっていくべきだったと思っている。口は禍の元で軽率な発言は後悔を生むということをここ数年で経験し、「沈黙は銀、雄弁は金」という諺こそ真理だと考えるようになっていたが、今回これが必ずしも真ではないことが分かり、今は自分の考えの甘さと状況に対する柔軟性のなさを大いに嘆いている。こと IYC のように力まずに開放的な議論が求められる場ではもっと楽しくやれたらよかったのかもしれない。IYC ではいくつかのイベントを通して交流することで議論しやすい雰囲気をつくり、議論して相手の考えを知ることが交流になる、というスパイラルが存在していたことにもっと早く気付くべきであった。

以上を踏まえて、今後 YMCA の活動に際してリーダー同士の話し合いをするときにはもっと積極的に発言をしていきたいと思う。とはいえ闇雲に発言するのであれば全く意味がないので、例えば議論の中の不明確な箇所について私が尋ねることで全員がその意味や目的を再確認できるように、あるいは活性化を図れるように考えた上で口を開いていけたらと思う。

（続く）

（続き）

各国のメンバーと共にセッションに参加したり、交流したりする中でこのような自分の改善点がみつかったことをとても嬉しく思う。そして同時に今回発見した短所と「英語力」を改善し、来年の AYC あるいは再来年の IYC に再び参加して友と再会し、私の成長した姿を見せることができたらいいな、と密かに思っている。



永坂　仁

自分は今回の台湾 IYC の参加は初めてですが、去年の AYC に参加しており、そこで大勢の台湾ユースの方々と友達になった。なので、初日のオープニングセレモニーでは見知った友人が大勢おり、比較的緊張せずに参加することができた。

そして自分は前回の AYC で、日本ユースや台湾ユースの方々と主に日本語でしかコミュニケーションをとっていなかったこと、セッションの内容を深く理解できていなかったことを反省し、今回の IYC では積極的にいろんな海外のユースの方々と友好を深めることや、セッションに積極的に参加していくことを決意した。

オープニングセレモニーの後に行われたアイスブレイクやスポーツフェスティバルでは自分が打ち立てた目標通りに、海外のユースと積極的に英語でコミュニケーションをとることができ、ハウスルームのでも冗談を交えながら会話するような仲になりました。

しかし、二日目からのセッションでのディスカッションでは、自分はその内容を深く理解することができず、発言もほとんどできずに発表となってしまいました。そのときはグループの仲間たちが自分のために分かりやすく内容を説明してくれたことや、役割を振ってくれたことがうれしかった半面くやしく思いました。

私は前回の AYC と今回の IYC で得た経験を次に AYC、IYC に参加する人たちのために伝えることと、もし機会があれば実際に自分も参加し、YMCA に貢献していきたいと思いました。

内海　研治

そのとき、私の価値観は何によって形成されたものなのか見つめ直していた。IYC でアジア地域の Devotion を担当し、私たち日本人はヒロシマ、核、植民地支配、戦争について考え、平和への祈りとして発表した。さまざまな国が参加している中で、さらに台湾という土地で、私たちの言葉の意味は相手にどのように届くのか、私が捉える歴史とはどのような事実と解釈によるものなのか、いま私はどの立場にあるのか、問い直す作業をしていく。

Devotion のための議論を重ねていくなかで、お互いの「正しさ」とするものがぶつかることもあったが、そのプロセスにこそ平和へのヒントがあると気付くことができた。様々な「違い」を排他的ではなく、お互いが受け入れる道を探求し、むしろ違いがあるからこそお互いが歩み寄る姿勢を大切にしたい。そのためには、「正しさ」の捉え方に、誰の、どのような思いがあるのか、その背景を踏まえて相手と向き合う必要があるだろう。日本 YMCA 基本原則には、「私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます」と明記されている。私たちの祈りのプロセスが、そしてあのときの私たちの祈りが、目指すべき平和へ向いていることを願っている。

IYC に参加し、新しい出会いの中で、様々な価値観にふれると、自分にとって何が大切で、何を正しさとするのか、突きつけられている感覚になる。これまでの自分の価値観を疑うことは新鮮で、改めて私の中にあるものを見つめなおすことができた。違いは時に障壁に成り得ることもあるが、違いがあることは当たり前のことで、むしろ違いの中に恵みを受け取りたい。違いが違いとして受け入れられ、そこに競争や奪い合いがなく、お互いを理解、尊重すること、お互いに心を受け取り合うことが大切であると学んだ。世界のどこかの誰かではなく、顔の見える友だちが世界にいることは、平和の源になるはずだ。

（続く）

（続き）

私は YMCA のスタッフとして、ワイズメンズクラブとの Relationship を深めていくとともに、世界の YMCA/ワイズメンズクラブと草の根レベルでの友好関係を築いていくことを今後の活動に加えたい。IYC で出会った世界中の友だちたちとこれからも一緒に活動していくことが、世界との繋がりを深める契機になることを願っている。

最後に、宇都宮ワイズメンズクラブならびにワイズメンズクラブ東日本区の皆さま、そして IYC 運営をしてくださった Host Committee の皆さまに深謝申し上げます。

Ⅶ　編集後記

IYC の報告書担当になり、「この報告書を見て IYC に参加したくなりました」と思わせる報告書にしたかった。そのため、視覚へ訴えることのできる写真がキーファクターとなると睨み、Facebook に投稿されている写真を集め、Google photo のリンクを集め、LINE のアルバムから写真を集め…ある意味、現代の技術がつまった一冊といえる。そして、ここにどの写真を入れようか考えながら画面を眺めていると、あの１週間が人生の中で最も充実していた１週間であったと、しみじみ感じた。

ところで私は、表紙よりも裏表紙のほうが重要であると考えている。なぜなら、裏表紙は読み手が最後に見るページだからだ。書き手である私が、読み手に最後に伝えたいこととは何か？ そう考えたとき、あの写真を使いたいと思った。この裏表紙の写真は、日本が担当する部分の Devotion をどのようにするか、ということを決めるミーティングの様子である。どのような内容で「平和」を祈るのか。個人個人の思い・信条が交錯し、紆余曲折を経て発表に至った。

しかしあの場こそ、私たちが「JAPAN」となり、一つになった瞬間だと私は思う。よりよいものを作りたい、という思いで皆が取り組み、試行錯誤をしたあの場こそ、お互いの気持ちを伝えあい、理解しあう大切な場であったと思うからだ。

最後は、私のルームメイトの写真の紹介で編集後記を終える。左から、わたくし須郷、スコッチ大好きインド代表アマン、我的好朋友台湾代表ブレット、優しい笑顔エジプト代表ミナ。最高のルームメイトでした。

編集担当：須郷利貴

IYC 2016 Taipei, Taiwan REPORT

Reiko, Toshiki, Mika, Daichi, Jin, Kenji, Shoma, Sara